

一般社団法人
日本看護系学会協議会
ニュースレター
JANA

第27号

2020年3月12日 発行

編集発行

日本看護系学会協議会

(事務局)〒104-0044

東京都中央区明石町10-1

聖路加国際大学大学院看護学研究科内

日本看護系学会協議会 庶務担当

E-mail : jana-jim@slcn.ac.jp

会員学会の皆様



一般社団法人 日本看護系学会協議会

会長 小松 浩子

新たな年度を迎える季節ですが、皆様、新型コロナウイルス感染症への対策・対応に最大限の努力を送る日々と存じます。保健医療専門職として、また学協会として不確実な情勢の中で、最善の対策・対応に努力されていますことに深甚の敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症の実態は、日々刻々と変化を遂げており、地域や日本全体はもとより、世界の動向に目を向けていく必要があります。2020年2月24日、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議により感染症対策の基本方針の具体化に向けた見解 (https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/newpage_00006.html) が出されました。「これから1～2週間が急速な拡大に進むか、収束できるかの瀬戸際となる」ため、「仮に感染の拡大が急速に進むと、患者数の爆発的な増加、医療従事者への感染リスクの増大、医療提供体制の破綻が起こりかねず、社会・経済活動の混乱なども深刻化する恐れ」があると指摘し、「これからとるべき対策の最大の目標は、感染の拡大のスピードを抑制し、可能な限り重症者の発生と死亡数を減らすことです」との考えが示されています。これまでに判明してきた事実（例えば、感染者の状況、感染経路、PCR検査について、医療機関の状況など）に基づき、症状に応じた受診等の対応、症状がない場合も対面で人と人との距離が近い接触（互いに手を伸ばしたら届く距離）の一定時間以上の継続や多くの人々との間で交わされるような環境に行くことを回避することなどをそれぞれの活動の特徴を踏まえて講じることが提示されています。

しかし、社会全般の動きを見ると、一般市民の皆様はもとより医療従事者においても明確な予防策や治療法が今だ確立していない中で不安な時を過ごしています。

今こそ、日本看護系学会協議会をはじめとする我が国の保健医療にかかわる学術団体は、一丸となって、大規模感染症の予防・制圧にむけた適切な対策に必要な知見を集約し、必要な体制などについて慎重な検討を進めていくことが求められています。厚労省や政府の対策はもとより、WHOの Coronavirus disease (COVID-2019) situation reports (<https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019>) や米国の連邦政府機関であるCDC (Centers for Disease Control and Prevention <https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/index.html>) の情報や対策を把握しつつ、各専門分野における予防、治療、評価などについて着目すべきデータや経験を集積していくことが必要と考えます。学術団体として未来をみつめつつ、今できる最大限の対応を考えて参りましょう。日本版CDCの体制整備についても声をあげていくことが必要と考えます。

各学会において集積されたデータや経験の分析について、日本看護系学会協議会を通じて発信できるものがありましたら是非ご連絡を頂きますようお願い致します。

6月7日に開催予定の2020年社員総会については、今のところ変更はございません。さる2月15日に理事会を開催し、2019年度決算案、2020年活動計画案、2020年予算案について検討を進めております。3月24日に開催予定でありました「看護ケアガイドラインワークショップ」は中止と致しましたが、時期や方法を検討の上、何らかの形で後日実施したいと考えています。

どうぞ皆様におかれましては体調に気を付けて少しでも安らかな時をお過ごしいただくことができますようお祈りしております。

研究倫理に関する会員学会への調査



看護系学会誌編集における倫理推進担当理事

池松裕子

看護系学会誌編集における倫理推進事業では、本協議会会員学会の編集委員長を対象に、研究不正についてのアンケートを行いました。48学会中30学会から回答があり、回収率は63.7%でした。お忙しい中、ご協力くださいました編集委員長の皆様にはこころより御礼申し上げます。本ニュースレターでは、アンケート結果の一部を抜粋してお届けします。

まず、各編集委員会で問題となっている不正行為は「二重投稿」「サラム投稿」「不適切なオーサーシップ」の3つが中心でした(図1)。研究不正についてのガイドラインについては4学会が独自のものを有していましたが、ほとんどの学会は投稿規定に含めていました。不正防止策として行っているのは、チェックリストの提出がもっとも多く、次いで誓約書の提出でした。分析結果の出力コピー提出やE-learningを義務化している学会はありませんでした(図2)。研究不正の発見のために著者やタイトルで検索を

している学会は半数弱で、剽窃チェックやデータを独自で分析している学会はありませんでした。

研究不正の原因・要因については、本人の知識不足を一番に挙げた編集委員長がもっとも多く、次いで本人の倫理観、二番目の原因・要因には上司や指導教員の指導不足があげられました(図3)。不正防止のためにもっとも重要なことは、基礎教育と大学院教育があげられました。そして、本協議会には、研究不正セミナー開催やハンドブックの作成、共有剽窃チェックシステムの構築が期待されていることがわかりました(図4)。

本協議会ではこのアンケート結果をもとに皆様のお役に立てるよう、次年度から具体的な活動を開始していきたいと考えています。なお、アンケートはここに示したような量的データに加え、大変多くの自由記載をお寄せいただきました。それらについては、別途ホームページに掲載いたします。

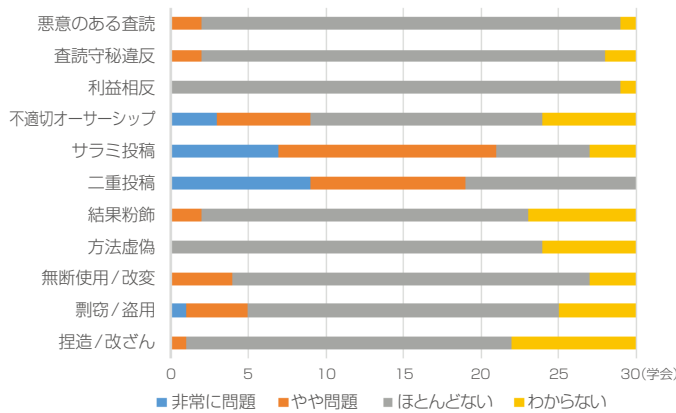


図1. 問題となっている不正行為

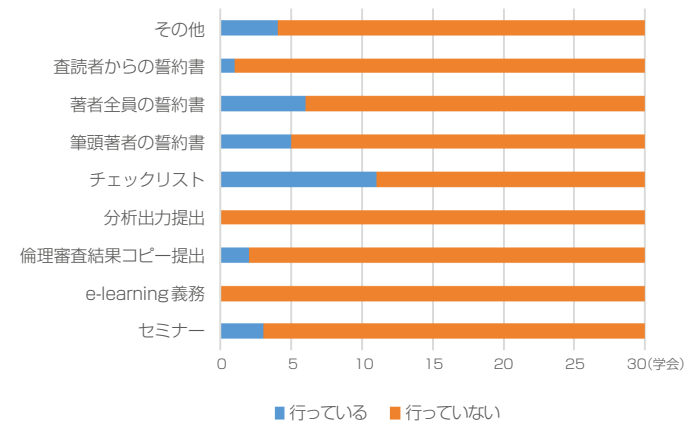


図2. 行っている不正防止策

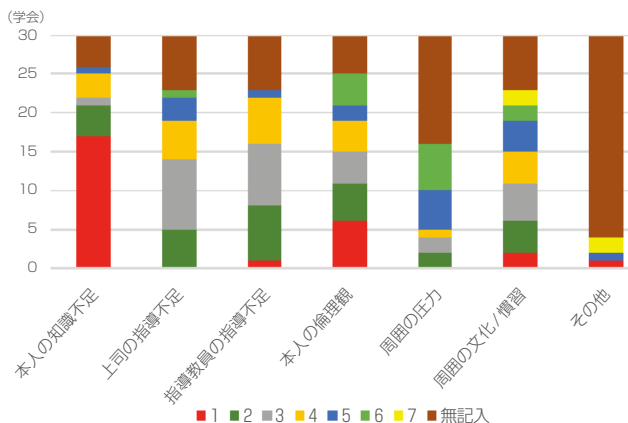


図3. 研究不正の原因・要因(順位)

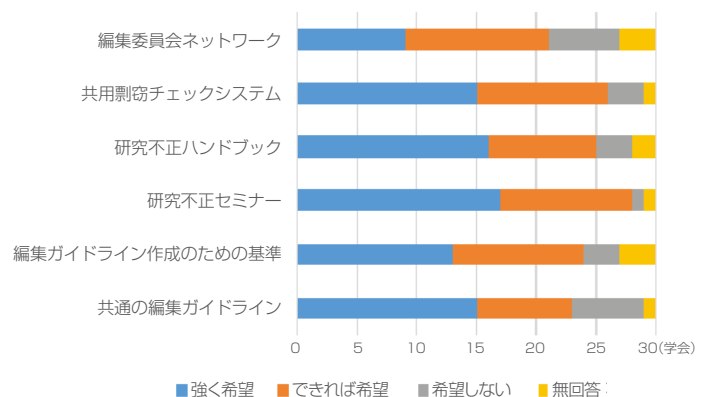


図4. 本協議会に希望すること

日本看護系学会協議会（JANA） 利益相反（COI）に関する情報交換会概要



副会長／COI担当理事

山本 則子

JANA総会におきまして、看護系学会における利益相反（以下、COI）の制度を整え、会員へ周知する必要があるとの提案を受け、2019年12月21日（土）東京大学本郷キャンパスにてCOIに関する情報交換会が開催されました。

本会の開催に先立ちまして、全学会のホームページよりCOI活動の状況（COI委員会・指針・様式の有無）を調査いたしました。その結果とともに、COIに関する5項目の質問を全学会にお送りしたところ、22学会より回答を頂戴しました。併せて、本情報交換会の参加者を募り、計19学会17名の参加を賜りました。皆様のご協力を得まして、各学会のCOIの現状や課題など多くの情報を交換することができ、大変貴重な機会となりました。

本情報交換会では、初めに、COIに先駆的に取り組んでおられる学会より情報を提供していただきました。すでにCOI指針・様式を作成されている3学会（日本看護科学学会・鈴木みずえ先生、日本公衆衛生看護学会・麻原きよみ先生、日本生殖看護学会・坂上明子先生）より、COI指針作成の経緯や現在の状況・課題などをご説明いただきました。

3学会とも、医学会やその他看護系学会を参考にCOI指針を作成されたということでしたが、作成したCOI規程が果たして看護系としての基準に沿ったものなのか、看護系としてどこまで網羅する必要があるのか等、検討の余地があることのご意見がありました。

次に、COIに関する質問の回答結果を参照しつつ、看護系学会におけるCOI活動の課題や対応策について意見交換いたしました。意見交換の主な内容は以下の通りです。

- ・自己申告が真実であるかの審査まで行っているか。
- ・学術集会で初めてCOIが発覚することも懸念されるが、どのように対応するか。
- ・責務相反については、どの範囲まで求めたらよいのか。
- ・COI規程の適用範囲はどこまで網羅すればよいのか。
- ・本人が該当していないと判断して申告していない場合、指針違反になるのか。

上記課題に対しては様々な意見が出されましたが、明確な回答を導き出すことは難しく、疑問が膨らむ結果となりました。

また、事前にご協力いただきましたCOIに関する質問の中で、「COIに関して困っていることがあるか」という問いに対しては、

- ・規程がない、形式が確立していない。

- ・看護系の情報が不足している。
 - ・相談先・対応策がない。
- との回答が多く寄せられており、多くの学会が手探りの中でCOI活動を行っていると推測されました。

今回の情報交換会および事前のCOIに関する質問の回答結果より、看護系学会におけるCOIの規程が確立しておらず、COI活動に取り組むうえで多くの課題があることが明らかとなりました。

以上を踏まえ、本情報交換会におきましては「専門家を招きCOIに関する講演会を開催すること」「ワークショップを通じてさらなる検討が必要であること」について合意されました。

また、専門家に伺いたい内容としては以下の項目が挙げられました。

- ・「審査」について（役員就任時と重大な議案が生じた時の審査の整理）
- ・倫理委員会とCOI委員会との役割分担について
- ・COI委員の構成について
- ・営利法人の事業所に所属する会員が多い学会の対応

なお、本情報交換会の詳細につきましては、「JANA_COI会議メモ」として全学会にメールで配信しておりますので、どうぞご参照ください。

今後のJANAにおけるCOI検討の進め方としましては、全学会よりCOI検討委員を募り、COI検討委員会を立ち上げる予定しております。COI検討委員会によるワークショップの中で、専門家を招き講演会を開催し、この度明らかになりました多くの課題に助言をいただきたいと思えます。その結果を踏まえたうえで、本委員会によるワークショップにおいて検討を重ね、看護系学会としてCOI規程にどのような内容を盛り込むべきか枠組みを作成したいと考えております。そして、全学会に内容を共有し、各学会が実情を踏まえたうえで独自にCOI規程を作成できる基盤を整えることを目標としております。

今後、産学連携がますます広がっていくと考えられる中で、COI制度を整えることは看護系学会においても必要不可欠であると認識しています。また、COI制度を整えると同時にCOIの普及・啓発活動も必要になってくると考えられます。

今後も引き続きJANA COI検討活動において皆様のご協力を賜りたく、何卒よろしく申し上げます。

日本看護系学会協議会・日本看護系大学協議会共同事業 2019年度科研費審査システム改革2018の影響に関する調査報告



公的研究費拡大推進担当理事

萱間 真美

「科学研究費助成事業（科研費）審査システム改革2018」が平成30年度科研費（平成29年9月に公募）から適用されました。改革の骨子は、審査区分表の改正および若手研究の応募要件の変更です。審査区分の改正は、看護学のみな

らず関連学問領域と競合することとなりました。若手研究は一本化され、博士の学位取得後8年が経過すれば、39歳未満であっても若手研究には応募できなくなりました。

日本看護系学会協議会（JANA）と日本看護系大学協議

会 (JANPU) は共同で、昨年度に引き続き令和元 (2019) 年度科研費 (平成30 (2018) 年9月に公募) の応募状況と結果を調査し、科研費審査システム2018の影響を検討しましたので、結果の概要をご報告いたします。

1. 調査方法

日本看護系大学協議会 (JANPU) 会員校のJANPU担当者へ調査依頼及び調査票を送信し、メールにて返送していただきました。2019年調査時期：2019年12月 (提出期限：2020年1月末)、2019年度調査：会員校275校に配布、回収197校 (回収率71.6%)、有効回答196 (71.3%)：国立31校、公立38校、私立125校、他2校。

2. 調査対象

今年度の調査では、「看護教員 (科研費を申請・取得し、看護師、助産師、保健師のいずれかの免許を取得している教員) のみ」に關しての回答を依頼しました。

2018年調査では対象を看護教員のみと限定しなかったため、学部全体の状況を回答したと考えられる回答が含まれていたことをふまえて実施いたしました。

3. 結果

今年度は、基盤研究(A)、(B)および挑戦的研究において申請数、採択数ともに減少していました。昨年度は看護教員

以外も調査対象に含まれていた可能性があり、単純な比較は難しいものの、審査区分の変更によって、看護学の研究意義や質的研究方法が評価されにくくなっているとの意見が見られました。一方で研究テーマが明確化するというメリットも挙げられており、他領域の審査員に分かりやすい申請書を作成するための支援が必要と考えられました。

若手研究は申請数、採択数が減少し、基盤研究(C)は増加していました。若手研究の応募者の増減は、大学の状況によって異なっていました。また、若手研究に応募していた研究者が基盤研究(C)に変更している状況や、経験ある研究者が若手研究に応募しているといった状況も報告されており、若手研究者の育成やサポートに対する懸念が挙げられていました。特に、博士の学位をもたない若手研究者の申請支援を検討する必要があると考えられます。

調査結果の詳細はJANPUホームページで公開予定です。是非ご覧ください。

https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2020/03/2019kakenhicyousoJANA_JANPU.pdf

調査実施にあたり、多大なご協力を賜りましたJANPU事務局に、心より感謝申し上げます。

APNの資格制度構築に向けた活動の推進

— NP に関して —

高度実践看護師の資格制度構築に向けた活動の推進担当理事

岡谷 恵子



日本におけるナース・プラクティショナー (以下、NP という。) の資格創設に関する議論は、2019年3月に出された「医師の働き方改革に関する検討会」報告書に、NPの資格創設について検討すべきという意見が、現行の資格の下での役割分担について検討すべきという意見と両論併記ではあるが盛り込まれたことをきっかけに、具体的にNP資格創設について看護界での検討が進められてきました。NP資格については、日本NP教育大学院協議会 (JONPF) が10年前から診療看護師 (NP) という資格を認定してきました。JONPFは制度検討委員会を設けてNP制度についての検討を行っています。また、日本看護系大学協議会 (JANPU) は、2019年度からJANPUが認定したNP教育課程修了者をJANPU-NPとしてその資格の認定を始めています。JANPUは2013年度に専門看護師とNPを高度実践看護師 (APN) とする高度実践看護師制度を提示し、46単位のNP教育課程の認定を開始しています。JANPUではNPだけではなく専門看護師も含む高度実践看護師の制度構築を目指してAPNグランドデザイン委員会を発足させて、高度実践看護師教育課程の整理統合を始め、APNの養成促進と資格制度の在り方等について検討しています。両者のNPは定義も教育課程の基準も異なるために二つの団体がそれぞれに認定していましたが、昨年末に両者でNPの教育課程と資格の認定を一本化する方向での協議を開始しています。日本看護協会 (JNA) は2018年度に「日本看護協会NP (仮称) 制度検討委員会」を発足させて、日本におけるNP制度の創設に向けて検討を始めました。JNAは検討会発足に先立ち、関係者にヒヤリングを行いNP (仮称) 制度の必要性や、諸外国のNP制度について情報収集、分析を行っています。その結果、JNAが創設を目指すNP (仮称) を、「米国等のような医師の

指示を受けずに一定レベルの診断や治療などを行うことができる新たな看護の国家資格」と位置づけ、制度創設に関する議論が行われています。JNAのNP制度創設についての考え方については、雑誌「看護」の2020年2月号、p.34-38に担当理事の井本寛子氏の論文が掲載されています。

このように現状では、JONPF、JANPU、JNAの3団体がNP制度について検討していますが、三者の間でどんな資格制度を目指すのか、NPだけの資格なのか、専門看護師はどうするのかなど検討すべき重要な事項はまだまだ多々あります。しかし、これからの超高齢社会におけるヘルスケアニーズに、看護が積極的に応えていくためにNPは不可欠であること、裁量権の拡大を伴う資格制度にすべきであること、そのために法律改正は必須であることなどは共通認識していると思われ、少なくとも看護師の裁量権の拡大を伴うNP制度の創設について、今、看護界が声を上げることは重要なステップだと思います。今は、国におけるNPに関する議論は、医師の働き方改革の議論の中で行われているだけで、現行制度の範囲内で医師の負担を軽減するための業務分担という側面が強いものです。昨年の10月に発足した「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会」の議論の進展については注視する必要があります。(厚生労働省HP参照)

何れにしてもNP制度を含む新たな看護制度そのものについて検討するための仕組みを作るように国に働きかけていく必要があります。その際に重要なことは、看護界の総意として制度創設について提言していくことです。その時に、JANAが制度創設にどういった貢献ができるか、JANAが新たな制度の中で果たす役割は何かなどについて会員学会との協議を行い、JANAとして学会が新たな制度の中で果たすべき役割を提言していくつもりです。



看護の力で健康な社会を!

Nursing Nowキャンペーンについて

Nursing Nowキャンペーンは人々の看護職への関心を深め、地位の向上を目指して2019年からナイチンゲール生誕200年となる2020年末までの2年間、世界保健機構と国際看護師協会が連携し、運営する世界的な活動です。活動の取り組み方針は、SDGsの中の目標3・5・8に貢献するということです。日本では看護に関連する30団体の参加と13団体の後援のもと、日本看護協会がNursing Nowキャンペーン実行委員会を2019年5月11日に発足させて、世界と同じ目標を中心に活動を開始しました。本会も参加団体の一つとして実行委員会のメンバーとなっています。参加団体はキャンペーンの2年間に、それぞれの活動の方向性を決め、キャンペーン活動に取り組むことと、各団体の活動の情報を共有することが求められています。本会では、会員学会の皆様に対して各学会の学術集会やイベントにおいてこのキャンペーンを取り上げ、参加者に広く周知してもらうことや学術集会のプログラムにNursing Nowの目標に

関連するセミナー等を企画し実施していただくことをお願いしてきました。

2020年はキャンペーン最後の年です。実行委員会では2020年5月8日・9日に開催される「看護の日・看護週間」制定30周年・ナイチンゲール生誕200周年記念イベント「Nursing Now：看護の力で未来を創る」において、「Nursing Now フォーラム・イン・ジャパン」として三つの分科会を企画しました。分科会1は「トリプル・インパクトと政策」、分科会2は「在宅看護と持続可能な社会～看護師が社会を変える～」、分科会3は「災害に強いコミュニティ、安全・安心な社会の構築に向けた看護の貢献」というテーマです。しかし、残念ながら今般の新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、フォーラムは延期といたしました。

詳細は一般公益法人日本看護協会のホームページにアクセスしてください。



社員学会紹介

看護教育研究学会

(Academy of Nursing Education Research)

会長 森 千鶴

2019年1月に社員として加入させていただきました看護教育研究学会でございます。

看護教育研究学会は、看護及び看護教育に関する研究を発信し、看護学の発展に寄与するとともに看護職者の資質の向上を図ることを目指して12年前に設立いたしました。

近年、教員の教育力や看護実践力が問われていますが、教員も専門職業人として看護を問い続けることが重要であり、このような姿勢を示すことによって学生も看護を探究することができると考えております。

本学会では、日頃感じている看護教育の課題、教育内容

に関わる看護実践や教育方法、教育評価などの看護教育に関すること、学生のことなどについて共有し、一人一人が活力を得られるような学術集会の開催、年2回の学会誌の発刊をしています。規模は小さいのですが、志を高くもち、熱く語り合うことがモットーです。また看護職者の教育力や研究力の向上を目指した学習会を年1回、開催しております。

微力な学会ではありますが、看護学の発展に寄与できるよう会員共々努力をしていきたいと考えておりますので、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【役員】

会長

小松 浩子

副会長

山本 則子

理事

荒木田 美香子 (看護ケアガイドラインの開発普及の推進)

池松 裕子 (看護系学会誌編集における倫理推進)

大久保 暢子 (庶務)

岡谷 恵子 (高度実践看護師の資格制度構築に向けた活動の推進)

片田 範子 (日本学術会議・学協会との連携)

萱問 真美 (公的研究費拡大推進)

佐々木 吉子 (災害看護の学会連携)

佐藤 紀子 (医療安全推進における他機関との協力)

西村 ユミ (会計)

浅野 みどり (広報 (HP管理・ニュースレターの発行))

監事

数問 恵子

村嶋 幸代

—編集後記—

2020年はナイチンゲール生誕200年を記念するNursing Nowキャンペーンを展開していますが、年明け早々からCOVID-19の問題で日本中が多大な影響を受け会員学会のみなさまも対応に追われていらっしゃるかと拝察致します。看護職を含め医療関係者の感染も連日のように報道されています。さらに、2/27夕方、「3月2日から全国すべての小学校・中学校、それに高校と特別支援学校について、春休みに入るまで臨時休校とするよう要請する」との方針は、多くの子育て中の看護職と看護体制を堅持しなければならない看護管理者との双方の心配や負担は計り知れません。懸念される医療崩壊が回避、一日も早い終息を願ってやみません。

NL第27号は、研究倫理に関する調査、科研費審査システム改革の影響調査報告、COIに関する意見交換会概要など今後の看護アカデミアの発展に重要な記事が満載です。会員学会のみなさまに役立てていただきますこと、また、お読みいただいたみなさまからのご意見をお寄せいただきますことをお待ちしております。(広報担当理事 浅野みどり)

	学会名	理事長	学会連絡先					ホームページアドレス
			郵便番号	学会連絡先住所	学会TEL	学会FAX	学会E-mail	
1	公益社団法人 日本看護科学学会	真田 弘美	113-0033	東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201	03-5805-1280	03-5805-1281	office@jans.or.jp	山本 則子 http://jans.umin.ac.jp/
2	一般社団法人 聖路加看護学会	松谷美和子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内	03-3543-6391	03-5565-1626	slnr@slcn.ac.jp	松谷美和子 http://slnr.umin.jp/
3	一般社団法人 日本がん看護学会	小松 浩子	550-0001	大阪府大阪市西区土佐堀1丁目1番23号 コウタイ肥後橋ビル3階D号室 日本がん看護学会事務局		06-6447-2877	info@jscn.or.jp	森本 悦子 http://jscn.or.jp/
4	一般社団法人 日本看護学教育学会	佐藤 紀子	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jane@mynavi.jp	佐藤 紀子 http://www.jane-ns.org
5	一般社団法人 日本看護管理学会	別府 千恵	150-0013	東京都渋谷区恵比寿3-29-17 サンシティービル201号室 一般社団法人日本看護管理学会 管理事務局	03-6721-6803	03-6721-6823	kaikci@janap.jp	別府 千恵 http://janap.umin.ac.jp
6	一般社団法人 日本看護研究学会	宮腰由紀子	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階 ㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 一般社団法人日本看護研究学会事務局	03-3944-8236	03-5981-9852	g027jsnr-mng@ml.gakkai.ne.jp	宮腰由紀子 http://www.jsnr.jp
7	一般社団法人 日本救急看護学会	山勢 博彰	164-0001	東京都中野区中野2-2-3 ㈱へるす出版事業部内	03-3384-8030	03-3380-8627	jaen@herusu-shuppan.co.jp;	石坂 今成 http://jaen.umin.jp
8	一般社団法人 日本クリティカルケア看護学会	中村 美鈴	164-0001	東京都中野区中野2-2-3 ㈱へるす出版事業部内 一般社団法人日本クリティカルケア看護学会事務局	03-5312-7433	03-5312-7434	jaccn_jimu@herusu-shuppan.co.jp	今成・石坂 http://jaccn.umin.jp/
9	一般社団法人 日本公衆衛生看護学会	麻原きよみ	602-8048	京都市上京区下立売通小川東入る西大路町146番地 中西印刷㈱内	075-415-3661	075-415-3662	japhn@nacos.com	http://plaza.umin.ac.jp/~JAPHN/
10	一般社団法人 日本小児看護学会	浅野みどり	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル 株式会社毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	affairs@jschn.or.jp	新家 一輝 http://jschn.umin.ac.jp/
11	一般社団法人 日本助産学会	高田 昌代	116-0011	東京都荒川区西尾久7-12-16 創文印刷工業株式会社内 一般社団法人日本助産学会事務局	03-3893-0111	03-3893-6611	jam@soubun.com	高田 昌代 http://square.umin.ac.jp/jam/
12	一般社団法人 日本精神保健看護学会	萱間 真美	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター	03-5389-6254	03-3368-2822	japmhn-post@bunken.co.jp	近松 http://www.japmhn.jp/
13	一般社団法人 日本創傷・オストミー・失禁管理学会	田中 秀子	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル ㈱春恒社 学会事業部内 日本創傷・オストミー・失禁管理学会事務局	03-5291-6231	03-5291-2176	etwoc@shunkosha.com	田中 秀子 http://www.jwocm.org/
14	一般社団法人 日本地域看護学会	宮崎美砂子	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 ㈱ワールドプランニング内 日本地域看護学会事務局	03-5206-7431	03-5206-7757	ckango@zfhv.ftbb.net	筒井 愛 http://jachn.umin.jp/
15	一般社団法人 日本糖尿病教育・看護学会	正木 治恵	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階 ㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 一般社団法人日本糖尿病教育・看護学会事務局	03-5981-9824	03-5981-9852	g015jaden-mng@ml.gakkai.ne.jp	正木 治恵 http://jaden1996.com/
16	一般社団法人 日本母性看護学会	鈴木 幸子	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階 ㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 一般社団法人日本母性看護学会事務局	03-5981-9824	03-5981-9852	g031jsmn-mng@ml.gakkai.ne.jp	大月恵理子 定方美恵子 http://bosei.org/
17	一般社団法人 日本循環器看護学会	吉田 俊子	112-0012	東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F 一般社団法人学会支援機構内	03-5981-6081	03-5981-6012	jacn@asas-mail.jp	山下 穰 http://www.jacn.jp/
18	高知女子大学看護学会	野嶋佐由美	781-8515	高知県高知市池2751-1 高知県立大学看護学部内	088-847-5524	088-847-5524	kwuaonaddress@cc.u-kochi.ac.jp	有田 直子 http://www.kochi-wu.ac.jp/~nsgakkai/index.html
19	千葉看護学会	石丸 美奈	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学看護学部内	043-226-2426	043-226-2426	cans-adm@umin.ac.jp	石丸 美奈 http://cans.umin.jp/
20	日本アクション看護学会	日下 修一	243-0124	神奈川県厚木市森の里若宮9-1 松蔭大学 丸山昭子研究室内	046-247-1511 (大代表)		jadict-office@umin.ac.jp	丸山 昭子 http://plaza.umin.ac.jp/~jaddict/
21	日本運動器看護学会	吉田 澄恵	113-0033	東京都文京区本郷4-1-5 石渡ビル5F 株式会社アクセライト内	03-6801-6180	03-6801-6091	jsmn@accelight.co.jp	鈴木・大田 http://www.jsmn.jp
22	日本家族看護学会	野嶋佐由美	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jarfn@mynavi.jp	小野 智子 http://square.umin.ac.jp/jarfn/
23	日本看護医療学会	浅野みどり	461-8673	名古屋市中区大幸南1-1-20 名古屋大学大学院医学系研究科213号室 「日本看護医療学会事務局宛」	052-719-3158	052-719-3158	info@jsnhc.org	三尾 https://www.jsnhc.org
24	一般社団法人 日本看護技術学会	武田 利明	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル9F ㈱春恒社学会事業部	03-5291-6231	03-5291-2176	jsnas@shunkosha.com	武田 利明 http://www.jsnas.jp/
25	日本看護教育学会	山下 暢子	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科 看護教育学教育研究分野交付	043-226-2397	043-226-2397	jasne-office@yahoo.co.jp	中山登志子 http://jasne.umin.jp
26	日本看護診断学会	長谷川智子	160-0022	東京都新宿区新宿1-15-11 イマキイビル ㈱グローバルエクスプレス・国際会議センター内	03-3352-6223	03-3352-5421	jsnd@convention-access.com	佐藤 正美 http://jsnd.umin.jp/
27	日本看護福祉学会	岡崎美智子	865-0062	熊本県玉名市富尾888番地 九州看護福祉大学看護福祉学部 社会福祉学科 吉岡久美研究室	0968-75-1891	0968-75-1891	kumish@kyushu-ns.ac.jp	吉岡 久美 http://kangofukushi.sakura.ne.jp/

学 会 名	理事長	学 会 連 絡 先						ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会TEL	学会FAX	学会E-mail	宛先(担当者)	
28 日本看護倫理学会	八代 利香	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター 株式会社国際文献社内	03-5937-5644	03-3368-2822	jnea-post@bunken.co.jp	小高 雅美	http://jne.umin.jp/
29 日本看護歴史学会	佐々木秀美	737-0004	広島県呉市阿賀南2-10-3 広島文化学園大学内	03-3409-0190	0823-74-5722	katoih@hbg.ac.jp	加藤 重子	http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/
30 一般社団法人 日本災害看護学会	酒井 明子	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階 ㈱カリエオ 学会業務情報化センター内 日本災害看護学会事務局	03-5981-9824	03-5981-9852	g034jsdn-mng@ml.gakkai.ne.jp	清水 誉子 酒井 彰久	http://www.jsdn.gr.jp/
31 一般社団法人 日本在宅ケア学会	亀井 智子	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビル2F ㈱ワールドプランニング内 日本在宅ケア学会事務局	03-5206-7431	03-5206-7757	jahc@zfhv.ftb.net	西山 真澄	http://www.jahhc.com/
32 日本手術看護学会	石橋まゆみ	113-0033	東京都文京区本郷3-19-7 本郷三宝ビル4F	03-3813-0485	03-3813-0539	jona@yacht.ocn.ne.jp	星 正行	http://www.jona.gr.jp/index.shtml
33 日本新生児看護学会	宇藤 裕子	594-1101	大阪府和泉市室堂町840 大阪母子医療センター看護部内 日本新生児看護学会事務局	080-4839-0071	0725-55-6701	info@jann.gr.jp	宇藤 裕子	http://www.jann.gr.jp/
34 一般社団法人 日本腎不全看護学会	佐藤 久光	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1-4F ㈱カリエオ 学会業務情報化センター内 一般社団法人日本腎不全看護学会事務局	03-5981-9824	03-5981-9852	g045jann-mng@ml.gakkai.ne.jp	佐藤 久光	http://ja-nn.jp/
35 日本生殖看護学会	上澤 悦子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内 日本生殖看護学会事務局	03-5550-2293	03-5550-2293	jsin@slcn.ac.jp	三上	http://jsin.umin.jp
36 日本赤十字看護学会	高田 早苗	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内	03-5485-5777	03-5485-5777	jrcsns@redcross.ac.jp	田母神裕美	http://jrcsns.umin.ne.jp/
37 一般社団法人 日本難病看護学会	本田 彰子	156-8506	東京都世田谷区上北沢2-1-6 東京都医学総合研究所 難病ケア看護研究室	03-6834-2290	03-6834-2291	ushi2@gunma-u.ac.jp	牛久保美津子	http://square.umin.ac.jp/intrac/
38 一般社団法人 日本放射線看護学会	草間 朋子	036-8564	青森県弘前市本町66-1 弘前大学大学院保健学研究所内	0172-39-5922	0172-39-5922	kidachi@hirosaki-u.ac.jp	木立るり子	http://www.rnsj.jp/web/index.php
39 日本母子看護学会	齋藤 益子	143-0015	東京都大田区大森西4-16-20 東邦大学医学部看護学科 家族生殖看護学研究室内	03-3762-9881	03-3766-3914	jmica2@gmail.com	山崎 圭子	http://jmica.kenkyuukai.jp/about/
40 日本慢性看護学会	黒江ゆり子	501-6295	岐阜県羽島市江吉良町3047-1 岐阜県立看護大学内		058-397-2312	jscicn-office@umin.ac.jp	藤澤まこと 星野 純子	http://jscicn.com/
41 日本ルーラルナース 学会	春山 早苗	329-0498	栃木県下野市薬師寺3311-159 自治医科大学看護学部内	0285-58-7512	0285-44-7257	ynagai@ms2.jichi.ac.jp	永井 優子	http://www.jasrun.org/
42 一般社団法人日本老 年看護学会	堀内 ふき	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 株式会社ワールドプランニング内 一般社団法人日本老年看護学会事務局	03-5206-7431	03-5206-7757	rounenkango@nqfm.ftb.net	江頭麻衣子	http://www.rounenkango.com/
43 北日本看護学会	塩飽 仁	980-8575	仙台市青葉区星陵町2-1 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 家族支援看護学講座小児看護学分野			liaison@njans.net	小林 淳子	http://www.njans.net
44 日本ニューロ サイエンス看護学会	大久保暢子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学大学院看護学研究科	03-3543-6391	03-5565-1626	nobu-okubo@slcn.ac.jp		http://www.jann-2012.com
45 日本フォレンジック 看護学会	加納 尚美	300-0394	茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2 茨城県立医療大学保健医療学部看護学科 加納尚美研究室 日本フォレンジック看護学会事務局 阿部宛	029-840-2181		mail@jafn.jp	阿部	http://jafn.jp/
46 日本産業看護学会	河野 啓子	807-8555	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1 産業医科大学産業保健学部 産業・地域看護学講座内 日本産業看護学会事務局	093-691-7160	093-692-0259	jaohnadmin@mbox.health.uoeh-u.ac.jp	中谷 淳子	http://www.jaohn.com/
47 看護教育研究学会	森 千鶴	305-8575	茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学大学院人間総合科学研究科	029-853-8062	029-853-8062	info@nihonkango.jp	森 千鶴	http://nihonkango.jp

